

## 平成 19 年度第 2 回理事会議事録

日時：平成 19 年 5 月 28 日（土）  
14：30～16：40  
場所：キャンパスイノベーションセンター（田町）多目的室 2  
出席者：杉山、蓮見、青木（史）、五十嵐、植村、工藤（芳）、車、酒井、佐藤、田村、生田目、松岡、山中、河原林、國澤、小野  
委任状出席：石川、大平、岡崎、面矢、清水、工藤（卓）、國本、久保、黒川、白石、須永、永井、中嶋、西川、原田、降旗、宮崎、森田、両角、阿部  
欠席者：青木（弘）、大島、細谷、三橋、金

### 1. 会長挨拶

杉山会長より挨拶がなされた。

### 2. 平成 19 年度第 1 回理事会議事録の承認

（小野本部事務局幹事）

小野本部事務局幹事より平成 19 年度第 1 回の議事録案が提示され、承認された。

### 【審議事項】

### 3. 平成 19 年度組織体制について

（杉山会長）

杉山会長から平成 19 年度組織体制案が示され、審議された後承認された。

### 4. 平成 18 年度決算・監査報告

（國澤本部事務局長）

國澤本部事務局長から平成 18 年度決算について、配布資料に基づき説明がなされた。その説明に対し宮崎清監査および原田監査より書面にて監査報告がなされた。

### 5. 平成 19 年度予算案

（國澤本部事務局長）

國澤本部事務局長から平成 19 年度予算案について、配布資料に基づき説明がなされた。主な点は以下のとおりで

ある。

収入の部

・昨年度の作品集の別刷料および名簿代金の未回収分を計上している。

支出の部

・昨年度の作品集 1 冊、論文集 1 冊、特集号 1 冊の未払い分、また論文集、作品集の掲載数増加などの理由により、印刷費を例年より多く計上している。

6. 平成 19 年度春季研究発表大会について（河原林春季大会実行委員長）  
河原林春季大会実行委員長から、配布されたプログラムに基づき説明がなされた。現時点の事前申込み者数は 110 名、作品集の作品展示は 9 件であるとの報告がなされた。

7. 第 54 回研究発表大会の座長案とグッドプレゼンテーション賞の選考について（工藤概要集編集委員）  
工藤概要集編集委員から、前回の理事会で指摘された部分を修正した案が提示され、説明がなされた。杉山会長から選考基準の文言を再度、検討して頂きたいとの要望がなされ、概要集編集委員会で再度検討することとした。また松岡理事から賞状には口頭発表とポスターセッションを識別できる文言を記載するべきではとの意見がなされ、概要集編集委員会にて検討することとした。

8. 平成 20 年度春季研究発表大会について（杉山会長）  
現在、いくつかの候補地はあがっているが、まだ確定できる段階ではないため、山中平成 20 年春季研究発表大会担当理事が中心となり、次の理事会までに再度検討を行い、承認できる段階まで調整を行うこととした。

### 9. 会員の移動について

（小野本部事務局幹事）

本部事務局に提出された書類を回覧、審査した結果、入会 [正会員 20 名（内外国人 4 名）]、賛助会員 1 件、年間購

読会員 1 件が承認された。

10. 学会シンボルマークの色彩等について（西川理事・代理小野本部事務局幹事）  
西川理事の代理として、小野本部事務局幹事から学会シンボルマークの取扱いについて、配布資料にもとづき説明がなされ、承認がなされた。

### 【報告事項】

### 11. 特集号進捗状況について

（工藤（卓）学会誌編集・出版委員長  
代理小野本部事務局幹事）  
工藤（卓）学会誌編集・出版委員長の代理として、小野本部事務局幹事から、特集号の進捗状況について説明がなされた。

### 12. 平成 18 年度委員会活動報告および平成 19 年度委員会活動方針

（國澤本部事務局長）

國澤本部事務局長から、総会資料作成にご協力頂きたいとの依頼がなされた。

### 13. 「車座の会：21 世紀、デザインング教育の文脈、創験、展望」について

（松岡第 2 支部長）

松岡第 2 支部長より、第 2 支部主催の「車座の会」について、配布資料に基づき説明がなされた。

### 14. 作品集の進捗状況について

（佐藤作品審査・作品集編集委員）

佐藤作品審査・作品集編集委員から作品集の進捗状況について説明がなされ、4 月 29 日に発送業者に届き、5 月 1 週目には会員の方の手元の届くとの報告がなされた。

記録：小野

## 平成 19 年度 春季研究発表大会報告

大会実行委員長 河原林桂一郎

平成 19 年度の第 54 回春季研究発表大会は、平成 19 年 6 月 22 日（金）から 24 日（日）まで浜松市の静岡文化芸術大学で開催されました。今回のテーマは、「産・学・官とデザイン」で会員を中心に 510 名の参加があり、学会史上最大級の大会となりました。

今回のテーマの主旨は、以下の背景に基づくものでした。『日本の中心に位置する浜松はモノづくりのまちとして起業精神、先取り精神で多くの製造業（トヨタ、本田、スズキ、ヤマハ、河合楽器、浜松ホトニクスなど）の創業者を輩出し、地方都市でありながら世界レベルの技術が集積し、それを形にする高いデザイン力を備えています。最近では、デジタルフォント製作や CAD、CAM を駆使した金型設計などの IT 関連産業の進展も著しいものがあります。また、静岡県は、ユニバーサルデザイン先進県として全国に先駆け環境整備を進めており、中でも浜松市は、日本でも有数の外国人比率の高い国際都市としてユニバーサルデザインを推進しています。この地域では、活況である自動車、IT 産業の裾野を支える産業を中心にデザイン人材の育成が急務となっており、デザインを軸に地域や産業の活性化や発展を期す将来を見据えた動きも見られ、デザインの果たす役割は、産・官・学及び市民を通じて高まっています。』

大会初日には、静岡文化芸術大学の川勝平太学長による基調講演があり、「21 C の国土のグランドデザイナー『美しい国づくり』に向けて」と題し、森の州、野の州、山の州、海の州の四州からなる「ガーデン・アイランズ」による「富国有徳」の国、美しい日本の姿と「21 C は、文化力を中心とした美しい国づくり」について語られました。

続いて、スズキ株式会社デザイン部の吉村等部長による「スズキデザインの目指すもの」の特別講演があり、乗

用車 SX4 のデザイン開発ストーリーを通じてデザインの考え方や手法、今後のスズキブランドの目指すものなど、浜松発デザインについて紹介されました。

2 日目と 3 日目には、今回のテーマである「産・学・官とデザイン」に基づいて、「21 世紀、デザイン教育再考」「東海地区デザイン事情」「デザイン・インターンシップのゆくえー企業におけるメリット・デメリット」の 3 つのオーガナイズド・セッションが設けられました。いずれにおいても各パネラーからの積極的な発言に加え、参加者の鋭い質問も続き、密度の高い議論がなされました。特に、今大会では、企業関係者の参加が多く、デザイン人材育成や産学連携という共通の課題への関心の高さを伺うことが出来ました。

口頭研究発表（145 件）とポスター発表（32 件）では、創造性とデザイン、デザイン史、環境に基づくインタラクティブデザインのデザイン、グラフィックタイプグラフィ、デザイン方法論、情報とデザイン、感性工学、形態論・建築・インテリアその他、ファッション・デザインとメディア、デザイン教育、コミュニティ活動のデザイン、デザインサーベイ、デザインマネジメント、ユニバーサルデザインの各分野にわたって会員の研究成果が発表され、熱心な質疑応答が続きました。前回大会に引き続き、部会統括発表枠として、8 つのテーマ・ディスカッションが設定され、より専門性の高い、突っ込んだ内容の討議がなされました。なお、発表キャンセルのため、D21「A Study on Ubiquitous Universal Design for Art Museum」は公的な研究発表としての効力を失います（Program and Selection Committee declare the following paper had been rejected because of the cancellation to the conference.）。お手元の概要集をご確認下さい。

本大会では、先に発行されたデザイン学研究作品集の作品も 11 点が展示発表され、作品集の実物を見る機会を提供することができました。今回の企業展示には、浜松地区の 3 企業が参加し、

デザインポリシーなどのプレゼンテーションを行ないました。

初日の夕方には、エクスカージョンが実施され、静岡文化芸術大学構内の施設見学コースと楽器博物館＋アクティビティ（大ホール、タワー）見学コースに分かれ、約 40 名が参加されました。また、大会会場では、全国から参加された会員や関係者に、新茶のサービスもあり、休憩コーナーは、和やかな談笑に包まれました。2 日目夜の懇親会は、予想をはるかに上回る参加者で、会場は大盛況となり、熱い雰囲気の中で大いに懇親を深めていただきました。

今回、50 回目の発表をされた郡山正名誉会員の口頭発表では、同氏のこれまでの学会活動への貢献に感謝して花束が贈呈されました。

なお、本大会のグッドプレゼンテーション賞には、以下の研究発表が選ばれ、大会閉会式において出席の受賞者に賞状が授与されました（所属省略）。  
○発想法の分類体系とそれに基づく新発想法構築の指針（浅沼尚、池町優太、氏家良樹、松岡由幸）

○近世初期風俗画における小袖意匠（末久真理子）

○ワーク観察とプロトタイプングを通じたドキュメントワーク環境のデザイン（平野靖洋、田丸恵理子、蓮池公威、北崎允子、高木友史、三島悠）

○屋外広告コントロールに関する研究—シンガポール・香港・清溪川周辺の商業地域を中心として（李銀璣、山本早里、西川潔）

○クチコミサイトによる情報編集の分析—デザイン・メディアとその編集者に関する研究（3）（鈴木香澄、工藤芳彰、古屋繁）

○メタファを用いた地域イメージの把握—熊本県阿蘇郡小国町の地域ブランド構築を目指して（田村良一、中村翔一、森田昌嗣）

○集合住宅における豊かさのユニバーサルデザインについて—福岡県筑紫野市の集合住宅開発計画を事例として（佐伯謙吾、森田昌嗣、岡泰雄）

○シナリオライティングを用いた QR コード付防災マップの評価研究（土屋雅人）

○モーションキャプチャを利用した統合計測空間の構築とその応用（梅谷智弘、松河剛司、横山清子）

○身体的なインタラクションデザイン—撮像装置を用いたアドビフラッシュ作品（尾関圭、小森久栄、尾崎洋、益岡了）

本大会は、「産・学・官とデザイン」のテーマに相応しく、全国から企業デザイン関係者、行政デザイン関係者、デザイン教育関係者が多数参加され、従来以上に産学官の連携の重要性を認識し、共有することができました。本学会にとって大きな収穫だと思われまます。次回の広島大会に向けて、新しい一歩が進められることを期待いたします。



静岡文化芸術大学 川勝平太学長による基調講演



オーガナイズド・セッション1会場



オーガナイズド・セッション3パネラーとオーガナイザー

## 平成 19 年度総会報告

本部事務局

平成 19 年 6 月 22 日（金）、静岡文化芸術大学において、平成 19 年度総会が開催されました。司会進行は國澤好衛本部事務局長が行いました。司会から、出席者数は、会場出席者 38 名、委任状出席者が 256 名の 294 名（定数 206 名）で総会が成立することが報告されました。

杉山会長から、本年度は、昨年度の基本方針「ひろくデザイン界の発展に資する学会に」を継承しつつ、また本年は任期の最後の年でもありますので、これまでの事業成果と課題を踏まえ、施策の完全実施化あるいは明確な方向性の獲得に全力で取り組んでいきたいとの説明がなされました。

議事は小山登会員（トヨタ自動車株式会社）と井口朋之会員（静岡文化芸術大学大学院）の二人の議長団の司会で進行されました。

蓮見孝副会長から平成 18 年度の活動報告があり、つづいて國澤本部事務局長より平成 18 年度の決済報告がなされ、それに対して宮崎清監査、原田昭監査から書面にて監査報告がなされました。その後、会場からの質疑応答を経て議決の結果承認されました。

青木弘行副会長の平成 19 年度事業計画の説明に続き、蓮見孝財務委員長から平成 19 年度の予算案の説明があり、質疑応答を経て議決されました。

今回、名誉会員となられた会員の方は、石井英機会員（名誉会員 60 号）、

堀田明裕会員（名誉会員 61 号）の 2 名です。総会の詳細については、会報末に総会資料を掲載いたしましたので、ご参照下さい。



杉山和雄会長による平成 19 年度活動方針説明



蓮見孝副会長による平成 18 年度理事会・活動報告



青木弘行副会長による平成 19 年度活動計画説明



國澤好衛本部事務局長による総会成立の確認ならびに開会宣言



石井英機会員へ名誉会員証授与

## 第2支部活動報告（第1報）

第2支部長 松岡由幸

平成19年4月20日（金）、27日（金）、5月11日（金）、18日（金）、慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスにおいて、日本デザイン学会第2支部の2007年度第1回活動としてデザイン塾が開催されました。本活動におきましては、松岡支部長が、内的デザインと外的デザインの観点にもとづくデザインの文脈、理論的視座と理念的視座にもとづくデザイン科学の枠組み、および帰納・演繹・仮説推論にもとづくデザイン推論の枠組みに関する講演を行いました。また、伊坂正人先生（静岡文化芸大）からはクルマ社会の「デザイン」に関するご講演、山本拓司先生（東京大）からはユビキタス情報社会に関するご講演、脇田玲先生（慶應大）からは情報デザインに関するご講演、中澤和夫先生（慶應大）からはロボットの行動生成に関するご講演を行っていただきました。各回の講演におきましては、デザインに関わる研究・教育者（慶應大・拓殖大・筑波大・東京大）、企業関係者（銭高組・朋栄・マツダ）、および学生等を含む約50名の方々と交えた活発なディスカッションが行われました。上記ご講演者の皆様、ならびに貴重なご意見をいただきました参加者の皆様に、この場をかりまして厚く御礼申し上げます。



伊坂正人氏による講演の様子



脇田玲氏による講演の様子

## 第2支部活動報告（第2報）

第2支部長 松岡由幸

平成19年5月12日（土）、慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスを会場として、日本デザイン学会第2支部の2007年度第2回活動：「デザイン塾：デザイン科学の枠組みに関するワークショップ」が開催されました。はじめに、松岡支部長が本ワークショップの趣旨を述べるとともに、デザイン科学の枠組み、デザイン理論の枠組みとしての「統合デザインモデル」、およびデザイン推論の枠組みに関する講演を行いました。つぎに、講師としてお招きしたイリノイ工科大学の佐藤啓一教授に、デザインフレームワークに関するご講演を行っていただくとともに、デザインに関わる研究・教育者（慶應大・静岡大・豊橋技術科学大）、企業関係者（東芝・日産・マツダ・ジャストシステム・DTD）、および学生等を含む約30名の方々と交えた活発なディスカッションが行われました。本ワークショップにおきましては、これまでに議論が進められてきたデザイン科学の枠組みが明確に見えてきました。今後は、この枠組みにもとづき、デザインの方法・教育・哲学などの具体的な課題に対する議論を進めていくことが望まれます。ご講演をいただきました佐藤教授、ならびに貴重なご意見をいただきました参加者の皆様に、この場をかりまして厚く御礼申し上げます。



会場の様子



佐藤啓一氏による講演の様子

## 第2支部活動報告（第3報）

第2支部長 松岡由幸

平成19年6月2日（土）、慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスを会場として、日本デザイン学会第二支部の2007年度第3回活動：「車座の会：21世紀、デザイン教育の文脈、創験、展望」が開催されました。本活動におきましては、はじめに、松岡支部長がデザイン対象や教育の多様性にもとづく文脈や、創発デザインと最適デザインにもとづく創験に関する講演を行いました。つぎに、ご参加いただきましたデザインに関わる実務者、教育者の方々から、ご提出いただきました意見書の内容にもとづきまして、デザイン教育に対する様々な意見を述べていただきました。この、意見提示の場では、デザインに関わる実務者（エンジニアスジャパン・小島デザイン・銭高組・田尾設計・東芝・トヨタ・トライフォーム・ノーバス・日産・朋栄・松下電工・マツダ・FDL・QLC）、教育者（カーネギーメロン大・慶應大・多摩美大・千葉工大・筑波大・東京芸大・東

京純心女子大・武蔵野美大・山口大・和光大・)、および学生を含む約40名の方々と交えたディスカッションも適宜行われ、終了時刻を大幅に延長するほどの熱い議論が交わされました。本車座の会におきましては、「多様性」を主なキーワードとした様々な意見が提示されました。今後は、デザイン教育における共通部や、斬新さのみならず完成度を高めるための造形基礎教育の在り方などに対する議論を進めていくことが望まれます。貴重なご意見を賜りました参加者の皆様に、この場をかりまして厚く御礼申し上げます。



会場の様子



会場の様子

## 第2支部活動報告(第4報)

第2支部長 松岡由幸

平成19年6月29日(土)、30日(日)、慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスを会場として、日本デザイン学会第二支部の2007年度第4回活動:「デザイン塾:デザイン方法論に関するワークショップ」が開催されました。はじめに、松岡支部長が本ワークショップの趣旨を述べ、デザイン科学の枠組みにおけるデザイン方法論の位置づけ、デザイ

ンの上流と下流におけるデザイン方法論の特徴比較に関する講演を行いました。つぎに、講師としてお招きしたカーネギーメロン大学の石崎豪准教授に、経験やコンテキストを考慮した文章の特徴解析法を、視覚デザインにおけるデザイン言語の体系化において活用する新しい方法論に関するご講演を行っていただくとともに、デザインに関わる研究・教育者(基礎デザイン学会・群馬大・慶應大・多摩美大・千葉工大・東京デザイン専門学校・長岡造形大・武蔵野美大・和光大・)、企業関係者(ジャストシステム・東芝・富士通・マツダ・)、および学生等を含む約40名の方々と交えた活発なディスカッションが行われました。本ワークショップにおきましては、デザインにおいて用いられる知識に関する議論や、情報デザインのように実体を伴わないデザインの扱いに関する議論が展開され、デザイン科学の枠組みに基づくデザイン方法論のための有益なご意見を多数いただくことができました。ご講演をいただきました石崎先生、ならびに貴重なご意見をいただきました参加者の皆様に、この場をかりまして厚く御礼申し上げます。



会場の様子



石崎豪氏による講演の様子

## 日本デザイン学会 ロゴの取扱いについて

日本デザイン学会のロゴの取扱いにつきまして、平成19年度第一回理事会にて、西川潔理事にご検討頂くようお願いし、ご提案頂きました案が、第二回理事会にて承認されました。

会員の皆様には、日本デザイン学会のロゴをお使いになる際には、以下の点をご留意頂きますよう、お願い申し上げます。

日本デザイン学会のロゴマークに関する取扱いについて

1. シンボルマーク(JSSD)の変形はいかなる場合もしない。
  2. シンボルマークのみの使用は可能。
  3. シンボルマークと学会名を組み合わせる場合は、現在、論文集「デザイン学」の表1・表4に使用されているシンボル・英文・日本語の構成、プロポーシオンを原則とする。(英語: Myriad Pro Condensed 日本語: ヒラギノ角ゴ Pro w6 \*ともにアウトライン使用可)
  4. 色彩は、単色或いは2色印刷の場合を考慮して現時点では特定しない。しかし、4色印刷に於いては無彩色を原則とする。なお、シンボルマークと文字は同色とする。
  5. いかなる有彩色、無彩色の場合にあっても地色とシンボル等との明度差は2以上とすること。
- (平成19年4月26日第二回理事会承認)

## 学会誌編集・出版委員会報告

委員長 工藤 卓

平成 18 年度第 8 回理事会での検討を経て、デザイン学研究特集号の第 15 巻 1 号通巻 57 号から、表紙、誌面ともにデザインをリニューアルいたしました。デザインにあたっては、学会誌編集・出版委員会が企画し、本会会員の河地知木氏（九州産業大学）にご指導いただきました。本欄をかりてお礼申し上げます。

表紙はこれまでの特色印刷にかえて 4 色カラー印刷にしています。誌面は情報内容を多くするために文字数を増し、図版のレイアウトも一定の形式に統一することで会員諸氏の原稿作成がより簡便になるようにデザインしています。

しかしながら、リニューアル版発行後に背表紙の文字レイアウトに不備があることに気づきました。委員長の編集ミスでした。本特集号の第 15 巻 2 号から背表紙のレイアウトを訂正して発行させていただきます。会員諸氏ならびに読者の皆様にご迷惑をおかけいたしましたことお詫び申し上げます。これからも本会特集号へのご協力とご愛読をお願い申し上げます。

## 第 55 回春季研究発表大会 開催地速報！

平成 20 年度第 55 回春季研究発表大会の開催地が決まりました。

開催地：広島国際大学 <http://www.hirokoku-u.ac.jp/>

日程：平成 20 年 6 月 27 日（金）～ 6 月 29 日（日）の予定

\* 現在 2 日間に短縮する案も検討中のため、上記日程は、あくまでも仮ですので、ご理解の程、よろしく願いいたします。詳細が決まりまじりしだい、随時お知らせさせていただきます。

## 選挙区をご確認ください！

本年度は役員選挙があります。ご自身の選挙区をご確認ください。原則ではご自宅の所在地が所属地区になっておりますが、ご希望により勤務先の所在地に変更することができます。変更をご希望の方は 10 月 15 日（月）までに、FAX（03-3301-9319）にて本部事務局までお申し出下さい。

選挙地区は、封筒の宛名シールに記載している会員番号でご確認いただけます。ひらがなの次の番号（「〇-2-XXXXXX」の場合は 2）が所属地区（選挙区）となります。1：東北・北海道、2：関東・山梨、3：東海・北陸・中部、4：近畿・中国・四国、5：九州・沖縄となっております。

選挙管理委員会

## 募集案内

平成 19 年度 (第 29 回)

沖縄研究奨励の推薦募集

沖縄研究奨励賞は、沖縄の地域振興及び学術振興に貢献する人材を発掘し、育成することを目的としています。

本奨励賞は、沖縄を対象とした将来性豊かな優れた研究(自然科学、人文科学又は社会科学)を行っている新進研究者(又はグループ)の中から、受賞者3名以内を選考し、奨励賞として本賞並びに副賞として研究助成金50万円を贈り表彰するものです。

応募資格は、学会、研究機関若しくは実績のある研究者から推薦を受けた50歳以下(7月15日現在)の方で、出身地及び国籍は問いません。

◆応募期間：平成19年7月15日  
～9月30日(当日消印まで有効)

### ◆応募方法

- (1) 所定の「沖縄研究奨励賞推薦応募用紙」に所要事項を記入し、
  - (2) 研究成果物(論文3点以内、著書がある場合は1冊)、
  - (3) 提出する研究成果物の要旨(A4判横書き各1,000字以内)、
  - (4) 研究業績リスト(著書、論文等30点以内。A4判横書き)
- を添えて郵送により提出していただきます。

### ◆応募書類の提出先・問合せ先

〒100-0013 東京都千代田区霞が関  
3-6-15 グローリアビル7F  
財団法人沖縄協会 沖縄研究奨励賞係  
担当：山岸貴生  
TEL：03-3580-0641 FAX：03-3597-5854  
HP：http://homepage3.nifty.com

## やまなしデザインコンペティション

2007 作品募集

山梨の地域資源を活かした魅力的なアイデアあふれる製品のデザインを広く募集し、新しい”やまなしブランド”となりうる製品づくりを目指します。

◆募集テーマ：『ワインを楽しむためのプロダクト』

◆募集期間：2007年8月1日(水)～

2007年9月28日(金)

◆募集対象：テーマにそったアイデアあふれる、未発表の製品デザイン

※未発表とは、製品化されて市場に出回っていないこと、販売等を目的として公表されていないこと、新聞・雑誌・Web等に掲載されていないことを指します

◆応募資格：全国の高校生以上の方ならば、どなたでもご応募いただけます。個人でもグループでも応募可能です。プロ・アマも問いません。

◆応募点数：応募者1人、または1グループにつき、何点でもご応募できます。ただし、応募作品1点につき、応募用紙1枚で応募して下さい。

◆応募方法：詳細は下記問合せ先またはHPでご確認ください。

◆応募・問合せ先：

山梨県デザインセンター  
(山梨県工業技術センター内)  
〒400-0055 山梨県甲府市大津町2094  
TEL：055-243-6101 FAX：055-243-6102  
E-mail：dc@yitc.go.jp  
HP：http://www.yitc.go.jp/design/d-index.html

## 第7回 グリーンサステイナブル

ケミストリー賞 候補者募集

GSCネットワークでは、2001年度より我が国におけるグリーン・サステイナブルケミストリー(略称：GSC)の推進に貢献のあった個人(複数の個人の連名を含む)、法人、任意団体にグリーン・サステイナブルケミストリー賞(略称：GSC賞)をお贈りし、その栄誉を称えて参りました。また2002年度よりGSC賞のうち特に優れたものについては経済産業大臣賞、文部科学大臣賞、環境大臣賞をお贈りしております。経済産業大臣賞は産業技術の発展に貢献した業績に、文部科学大臣賞は学術の発展・普及に貢献した業績に、環境大臣賞は総合的な環境負荷削減に貢献した業績に、それぞれ授与されています。

今般、第7回GSC賞候補者を募集致します。自薦、他薦を問わず奮ってご応募下さいませようお願い申し上げます。

◆応募方法：申請・推薦書様式、表彰規程、

第1～6回GSC賞結果・受賞内容等についてはGSCネットワークホームページ(<http://www.gscn.net>)、「表彰」のページに掲載しておりますのでご参照願います。

◆募集締切：2007年10月31日(水)  
(消印有効)

◆応募書類の提出先・問合せ先

【郵送書類の宛先】

〒101-0051 千代田区神田神保町  
1-3-5 富山房ビル2F

(財)化学技術戦略推進機構内  
GSCネットワーク

【電子情報の送付先】GSCネットワーク

E-mail：gscn@jcii.or.jp

問い合わせ先

TEL：03-5282-7272, FAX：03-5282-0250

HP：<http://www.gscn.net>

## 催し物

### 建築と暮らしの手作りモダン

#### アントニン&ノエミ・レーモンド展

- ◆会期：2007年9月15日(土)  
～10月21日(日)
- ◆休館日：9月18日(火)、25日(火)  
10月1日(月)、9日(火)、15日(月)
- ◆開館時間：午前9時30分～午後5時  
(入館は4時30分まで)
- ◆観覧料：一般 1000円(団体900円)  
20歳未満・学生 850円(団体750円)  
65歳以上 500円  
※団体料金は20名様以上から適用  
※高校生以下の方、障害者の方は無料
- ◆主催：神奈川県立近代美術館、ペンシルヴァニア大学付属建築博物館、カリフォルニア大学サンタバーバラ校付属美術館、読売新聞東京本社、美術館連絡協議会
- ◆協賛：ライオン、清水建設、大日本印刷
- ◆協力：レーモンド設計事務所、docomomo\_japan、日本航空、富士ゼロックス
- ◆会場・問合せ先：  
神奈川県立近代美術館 鎌倉  
〒248-0005 鎌倉市雪ノ下2-1-53  
TEL:0467-22-5000 FAX:0467-23-2464  
HP: <http://www.moma.pref.kanagawa.jp/museum/>

### フォーラム

#### 日本のデザインミュージアムを考える

私たちの生活文化と産業と共に歩んできた日本のデザインを、過去から現在、未来への資源として継承・発展の場とするジャパン・デザイン・ミュージアム(JDM)の実現に向けて、デザイナーはもとより、広く関係分野の方々との情報共有と意見交換を目的に、下記のとおり「フォーラム」を開催致します。

- ◆日時：2007年9月22日(土)14:00～17:00
- ◆場所：インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター([www.liaison-center.net](http://www.liaison-center.net))  
港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー5階
- ◆プログラム  
<第一部>  
(1) 構想の報告/活動経緯と今後の

計画報告

(2) 「デザイン・ミュージアム企画調査報告書」内容紹介

<第二部>

(3) 基調講演

「デザイン・ミュージアムの誕生」  
藤田治彦(大阪大学大学院教授)

(4) パネルディスカッション  
「デザイン・ミュージアムに望むこと・期待すること」

- ◆参加費：無料
- ◆定員：100名(定員になり次第締切)
- ◆主催：日本デザイン団体協議会(D-8) ジャパン・デザイン・ミュージアム設立準備委員会  
\*日本デザイン団体協議会は、以下の社団法人8協会で構成されています。日本ディスプレイデザイン協会(DDA)、日本グラフィックデザイナー協会(JAGDA) 日本クラフトデザイン協会(JCDA)、日本インテリアデザイナー協会(JID)、日本インダストリアルデザイナー協会(JIDA)、日本ジュウリーデザイナー協会(JJDA)、日本パッケージデザイン協会(JPDA)、日本サインデザイン協会(SDA)
- ◆HP：<http://www.cdaj.jp/whatnew/070903/index.html>

### DESIGN INNOVATION

#### FORUM 2007

高齢化社会への対応や、地球温暖化への取り組みなど、モノ作りに関わるすべての人々が取り組むべき大きな課題が私たちの前に横たわっています。

環境やユーザーへの深い洞察をもとにデザインと工学が従来以上に緊密に手を結び、経営がそれを支えることで新たな価値を生み出す、ユーザー対話型モノ作りを基盤とするイノベーションを実現することがその唯一の解決方法といえるのではないのでしょうか。

DESIGN INNOVATION FORUM 2007は、これからの私たちの暮らしやビジネスを支えるイノベーションのあり方を探っていきます。

- ◆日時：2007年9月20日(木)9:00～18:00

2007年9月21日(金)9:30～18:00

- ◆場所：東京大学安田講堂(受付/セミナー会場)  
工学部2号館フォーラム(展示会場)
- ◆定員：600名
- ◆主催：東京大学 日経デザイン
- ◆受講料：無料
- ◆協賛：  
<ゴールドスポンサー>  
LG電子 大阪ガス/リンナイ 東洋インキ製造 トヨタ自動車 富士ゼロックス  
<シルバースポンサー>  
東洋エクステリア 日野自動車 松下電器 ワコム
- ◆後援：英国大使館 国際デザイン交流協会 国際ユニヴァーサルデザイン協議会 精密工学会 日本インダストリアルデザイナー協会 日本機械学会 日本建築学会 日本設計工学会 日本デザイン学会 ヒューマンインタフェース学会 ユニバーサルデザインフォーラム
- ◆協力：英国王立芸術大学院ヘレンハムリン研究所 Too 日本航空 花岡車輛 ブリティッシュ・エアウェイズ
- ◆問合せ先：日経BP セミナー事務局  
DESIGN INNOVATION FORUM 2007 係  
TEL:03-6811-8653(土日祝を除く月～金 10:00～17:00)  
e-mail: [seminar@nikkeibp.co.jp](mailto:seminar@nikkeibp.co.jp)  
HP: <http://nd.nikkeibp.co.jp/nd/dif2007/>

### 医療の質・安全学会

#### 第2回学術集会

- ◆メインテーマ：「21世紀の医療と医療システムを求めて」
- ◆会期：2007年11月23日(金・祝)～25日(日)
- ◆会場：東京国際フォーラム(東京都千代田区)
- ◆プログラム：
  - ・一般演題発表とワークショップ
  - ・展示発表「質・安全の向上をめざすベストプラクティスー私たちの取り組みと工夫」
  - ・国際シンポジウム“People at the Center”

- ・教育講演 赤津晴子氏（ピッツバーグ大学）他
- ・日本医療情報学会／医療の質・安全学会同時中継シンポジウム「医療安全と情報」
- ・医療安全管理者ネットワーク会議
- ・企画展示「安全のための技術開発ー安全に配慮した医薬品・医療機器・用具・設備の紹介」
- ・ミニコース「医療が安全であるために」

◆お問合せ先：第2回学術集会事務局  
東北大学大学院医学系研究科国際保健学分野内  
jsqsh2007secretary@qsh.jp  
TEL:022-717-8196 FAX:022-717-8198  
HP:http://qsh.jp/2007/index.html

#### EcoDesign 2007

#### 第5回 環境調和型設計とインバース・

マニファクチャリングに関する国際会議  
「EcoDesign 2007: 第5回環境調和型設計とインバース・マニファクチャリングに関する国際シンポジウム」を2007年12月10日～13日に東京で開催致します。

- ◆会期：2007年12月10日(月)～13日(木)
- ◆会場：日本科学未来館（最寄り駅：ゆりかもめ テレコムセンター駅）  
詳細は下記 URL を参照してください。  
<http://www.miraikan.jst.go.jp/>

#### ◆プログラムの概要

- 12月10日(月)  
オープニング、特別講演、通常講演
- 12月11日(火)  
キーノートスピーチ、通常講演、  
ポスターセッション、懇親会
- 12月12日(水)  
キーノートスピーチ、通常講演、  
クロージング、各賞の贈呈
- 12月13日(木) 見学会

◆主催：エコデザイン学会連合

◆共催：IEEE CS TCEE, USA  
CARE Electronics, Europe

◆問合せ先：EcoDesign 2007 事務局  
TEL: 03-5720-7022  
E-mail: ecodesign2007@abegroup.jp  
HP:http://www.ecodenet.com/ed2007/Ja/index.htm

## 献本御礼

### ◆寄贈図書

- ・まなざし 視線, 千代田憲子, アトラス出版
- ・魔よけ百科, 岡田保造, 丸善

### ◆機関誌

- ・日本インダストリアルデザイナー協会 中部の30年,(社)日本インダストリアルデザイナー協会 中部ブロック
- ・KUMAGAI UPDATE, No.62, (株)熊谷組, 2007
- ・JProgress in Informatics, No.4, National Institute of Informatics, 2007

### ◆予稿集・論文集・報告書

- ・デザイン史学 第5号, デザイン史学研究会, 2007
- ・デザイン理論 第50号, 意匠学会, 2007
- ・北海道立工業技術センター 業務報告 平成17年度, (財)函館地域産業振興財団

## 会員の移動

◆平成19年度第2回理事会承認  
2007.5.26

<新入会>

\*正会員 19名 (内外国人4名)

梅谷 智弘	大島 康彰
菊地 加代子	駒込 大輔
坂本 和子	嶋野 宇一郎
永盛 祐介	野本 健司
原 侑希	堀口 利枝
森岡 亮	柳田 真希
山本 佐恵	横山 精光
吉住 優子	荘 育 鯉
張 強	朴 東 錫
林 佳 音	

\*賛助会員 1件

(株)ターフ・メディア・システム  
情報管理部情報企画課課長 橋本高

\*年間購読会員 1件

活水女子大学図書館

◆平成19年度第3回理事会承認  
2007.6.22

<新入会>

\*正会員 24名 (内外国人10名)

相野谷 威雄	大北 志帆
大竹 美知子	大橋 裕太郎
尾崎 圭	葛本 直央哉
北村 義典	田中 雅臣
手島 信洋	都甲 康至
中村 浩司	松本 昇
三友 奈々	山田 知幸
JAIME TARCISIO ALVAREZ RANIREZ	
ARIF AFFENDI BIN JAMAL	
金 志恩	李 洞佑
池 忠九	許 容碩
朴 希珠	趙 美蘭
朱 彬熙	CHANG YUNG-YUAN

# 平成 19 年度 日本デザイン学会 秋季企画大会（概要）

テーマ：「安心・安全のためのデザイン力」

同時開催「学生プロポジション in 湘南・学生の構想力」

主催：日本デザイン学会

期日：平成 19 年度 9 月 15 日（土）

場所：湘南工科大学 教育研究総合センター

## スケジュール

「安心・安全のためのデザイン力」	「学生プロポジション in 湘南・学生の構想力」 (学生自身による企画・運営)
<p>11:00 開場</p> <p>13:00 開会挨拶 杉山和雄 デザイン学会会長</p> <p>13:10 各賞表彰式</p> <p>13:30 大会記念講演「UD の現場から構想される安心へのデザイン力」 講師 荒井利春 金沢美術工芸大学教授</p> <p>14:30 展示説明&amp;ティーブレイク</p> <p>1) 「学生プロポジション in 湘南・学生の構想力」 ・学生自身による企画展示</p> <p>2) 「安心・安全のためのデザイン力」 ・学会員・研究室による展示 ・国際ユニヴァーサルデザイン協議会 (IAUD) 展示</p> <p>15:00 シンポジウム「安心・安全のための環境づくり」 パネラー 太田幸夫 多摩美術大学教授 清水忠男 千葉大学教授 土屋雅人 湘南工科大学准教授 コーディネータ 長谷高史 愛知県立芸術大学教授</p> <p>17:00 閉会挨拶 和田精二 大会実行委員長 湘南工科大学教授</p> <p>17:30 懇親会 大学内「シーサイド」</p>	<p>9:00 展示パネル設営開始</p> <p>11:00 県立辻堂海浜公園へ移動 ユニバーサルカヌー体験会 &lt;昼食&gt;</p> <p>13:15 大学へ移動</p> <p>14:30 展示説明 「学生プロポジション in 湘南・学生の構想力」</p> <p>17:10 展示物搬出</p> <p>17:30 懇親会 大学内「シーサイド」</p>

## その他

湘南工科大学

〒251-8511 神奈川県藤沢市辻堂西海岸 1-1-25

<交通> JR 辻堂駅から

徒歩約: 15 分

南口藤沢寄り階段を下り、左方向(藤沢方面)へ約 250 メートル進み、JR 立体ガードを右折して約 10 分歩き、浜見山交差点を直進して更に 200 メートル先、右側

バス: 約 5 分 浜見山(湘南工科大学前)下車

南口 1 番のりば: 「鶴沼車庫」、「鎌倉駅」行き

南口 2 番のりば: 「藤沢駅」行き

南口 3 番のりば: 「茅ヶ崎駅南口(辻堂団地)」行き

詳細は下記ホームページを参照ください。

<http://www.shonan-it.ac.jp/contents/access.html>



※この情報は、既にチラシとして別便でお手元に届いているものと同等です。